Management Club Report

Feb.2012/Vol.110

Monthly Opinion　≪脱震災、新しい社会の中で≫

まもなくあの 3.11 がやってきます。「あれからもう 1 年が経つのか」時の過ぎる速さにはただ驚くばかりです。しかし一方では被災地の復興、原発の事故処理、今後のエネルギー対策など、なかなかスピーディーには進まない諸問題が山積みされています。

被災地に住む人と、そうではない人とでは、考え方や気持ちの持ちようなどで随分違いがあるのだろうと思います。復興を遅らせている要因の一つとも言われる瓦礫処理を巡る動きなどにそれを感じることがあります。

自分たちに影響が出る事態になると突然のエゴがむき出しになる姿には情けなくなります。『絆』という奇麗な言葉も、所詮は対岸の火事に対する同情心の美化でしかなかったということでしょうか。

一方被災地では失われた町を復活させるべく、新しい街作りへ向けての確かな動きも始まっています。住民の意見や気持ちを組み入れた夢のある街作りが、自治体から要請を受けた建築家や都市計画の専門家などを中心に行われています。そのコンセプトは古くからあった住民同士の絆を深め合うところに置いていました。

また、Vol.107 で紹介した植物生態学者宮脇昭氏が中心となって防潮林を海岸線に植える動きも始まっています。しかもその植林に瓦礫を堆肥として活用しようというのです。受け入れ先がないなら自前で有効利用しようじゃないか。そんな力強さが伝わってきて大変頼もしく嬉しく感じました。

今回は、そんな被災地から届けられる希望と英知にヒントをもらいながら、震災を乗り越えた社会の中での活力ある歯科医院経営の掘り起こしについて考えてみたいと思います。

また丁度 1 年振りに『リレー評論／我が独善的歯科医院経営論』を掲載しました。自由診療経営移行 3 番手となった青木英明先生のストレートな経営論をお届けします。

1　迫られる収益構造の自己改革

家電メーカーの苦境

年明けから日本企業の業績見通しが発表されましたが、大手家電メーカーの歴史的な巨額損失予想には多くの国民が暗澹たる思いに囚われたのではないでしょうか。パナソニック、シャープ、ソニーといった世界的な家電 3 社の 2012 年 3 月期の最終赤字は合計 1 兆 2,900 億円にもなるというのです。テレビや電子部品などドル箱だったはずの製品が見る影もなく凋落し、今や経営の重荷になりつつあるとは、過去の栄光を知るわれわれ日本人にとっては、信じがたい現実です。半導体産業の復活を託していたエルピーダメモリーの破綻は、まさにその象徴的事件と言えるでしょう。